

## **【あ】 一葉落ちて天下の秋を知る、何気ないことに気づくことこそが大事**

わずかなことから全体の成り行きを知ることは災害でも当てはまる場合があります。つまり、それは前ぶれや予感といった災害勘とよんでもよいかもしれません。ちょっとした日常と違うことに気づくということは、周囲の変化に敏感であるということでもあり、何かが起きているということだからです。災害は刻々と状況が変化してきますので、そのときどきに適正な判断が求められます。そのために情報収集をして分析評価するという短い時間で行うことが必要です。ややもすると、都合よく解釈するという誘惑にかられますが、冷静になって、これまでの経験や科学知に基づいて対応するのが大事なことです。特に地域では絶対に二次災害を起こしてはなりませんので、そのことを念頭に置くことが基本です。

## **【い】 レッジ(知識、情報、学識)だけではだめ、実践力を養うには、けいこが必要**

足柄山の金太郎も力は強かったが、クマとの稽古なくして日本一にはなれなかった。いま、防災に関しては、様々な情報が簡単に得られます。ただし、量があるだけに適切なものを選択することは大事なことです。加えて、そのような知識を実践の場でどのように活かされるかが大事なことで、災害時には即断が求められますので、練習を積んでおくことが必要です。それには自分の足で、目で確認して問題点や課題を見つけて解決するというプロセスが大事なものは、他のものと同じです。防災に関するさまざまな取り組みや訓練などがありますので、できるだけ関心を持って参加されるようにしてほしい。大事なのは関心を持って継続するということです。

## **【お】 大雨警報、その時にうまく対応できないと避難のタイミングを失する**

台風や線状降水帯の発生がまじかに迫っていると気象庁や自治体が警報を出し、警戒や避難指示を伝えてきます。大事なことはこれらの情報について、事前に理解しておかないと聴いても適切な行動をおこすことはできません。どの段階での情報なのかを判断して避難のタイミングを計らなければなりません。避難は明るいうちに、早期に行うことが望ましいし、安全な避難ルートを確保する上でも大事なこととなります。もちろん、災害はシナリオ通りではありませんが、基本のパターンを持って修正しながらでないと、すぐに反応することはできません。

## **【く】 熊沢蕃山の教えがいま注目されています、日本の国土の7割が森林です**

熊沢蕃山は江戸時代の儒学者ですが、江戸幕府の様々な施策に取り入れられる提案をしています。その一つに、彼の意見を取り入れた「諸国山川の掟(1666)」というのがあります。これは、いまでいうところの森林環境の保全を、治水の上で重要なこととして、健全な植林、管理、流路の整備についての構想を示したものです。つまり制度的に治山治水事業の強化を図ったもので、土石流の抑制にも多大な役割を果たしました。それだけ、当時は山が荒れ土砂の流出が、物流や暮らしに大きく影響していたということだと思います。現在でも森林環境が悪化して、山地崩壊が進み、土石流が発生しやすくなっており、加えて流木災害も多くなっています。さらに谷筋では開発が進み、下流では橋脚などを閉塞して都市部への浸水被害を発生させ、港湾への影響も問題になっています。